

新規就農は現実になる

帯広畜産大学 畜産科学課程 2年 谷 夏海

「酪農がしたくて、畜大に来ました。」

先輩や同級生にこう言うと、驚かれることが多いです。従業員？と聞かれて、新規就農ですと言うとさらに驚かれます。「すごいね」「がんばって」そのような言葉を聞くたびに、私もまた、驚きを感じていました。帯広畜産大学という、名前に「畜産」という言葉が入っている学校でさえ、新規就農という道は珍しいのか、と。

帯広畜産大学へ入学できると決まったとき、夢でしかなかった酪農の道が現実になった気持ちでいました。しかし、1年生の前期、関わる人は電話越しの母と画面の中の先生方くらいしかいない状況で、心は揺らいでいきました。先生方が話す卒業生の進路は、道職員や研究者、企業などが中心で、酪農家や農家という道について話すことはほとんどありません。酪農家になることができるのは一握りなのだと感じました。大学で過ごす間に、私の酪農がしたいという気持ちは、小学生が宇宙飛行士になりたいと言うようなものなのではないかと思うようになりました。

「酪農なんて、大変だぞ。」

中学生の時に父に言われた言葉が蘇ります。

大学受験の際、新規就農がしたいと、自分の牧場が持ちたいと言った私に、頑張ってねという言葉と共に注がれた面接官のやさしげなまなざしは、現実を見ていない子供を嗜めるようなものだったのではないだろうか、そのようなことを思いました。

新規就農なんて夢で、ただ、ハイジのような暮らしに憧れているだけ。働きたくないという気持ちから来る現実逃避でしかない。きっと無難に就職して無難に年をとっていくのだろう。そう思いながら講義を受ける日々が続きました。

後期になってからサークル活動が始まり、馬と関わるサークルに入りました。そこで知り合った同級生や先輩は、自然が好きだったり、工学に興味を持っていたり、漠然と動物が好きだったり、様々な理由を持って帯広畜産大学に来ていて、酪農家になりたいという人はいませんでした。畜大なのだから皆が酪農に少しは興味があるものだと思っていた私は、若干の衝撃を受けました。

後期の半ば、このままではいけないと思い、情報が少なく入るかどうかわかっていた、酪農に興味のある人達が集まるサークルに入りました。そのサークルに入ったことで、私の人生は変わりました。そのサークルの先輩からも畜大に入った理由を聞かれました。私はやはり酪農がしたいからと答えるのですが、その時の私は、胸を張って新規就農がしたいとは言えなくなっていました。新規就農がしたいけど難しいし、本当に自分が酪農をしたいのか

どうか悩んでいる、というまとまりが無い私の話を、先輩方はきちんと聞いてくれました。そして、酪農家さんの元へ実習に行ってみないかと言ったのです。実習がどのようなものなのか、その酪農家さんがどのような人なのか、わからないことは沢山ありました。ですが、そこに行けば将来の道がはっきりするかもしれないということは何故か感じていました。私は、帰省用に空けていた春休みの2週間の期間を使って、その酪農家さんの元へ行くことにしました。

実習に行くと、その酪農家さんは、私のことが知りたいと言いました。私が、新規就農がしたいと思っていたけど、実際新規就農なんて難しいし、ただの夢で終わるのだろうと考えていることを伝えたところ、新規就農が難しいなんて誰が言っているのか、実際に新規就農をした人に話を聞いたことがあるのか、畜大を出て新規就農した人だって何人もいるんだぞという答えをもらいました。私はそれまで、新規就農した人に会ったことなんてなかったのです。それなのに何故、新規就農が難しいという考えを持っていたのでしょうか。酪農家さんと話して初めて、そういったことに気づきました。

その酪農家さんは実習中、帯広畜産大学を卒業して新規就農をした人たちのもとへ連れて行ってくれました。実習先で会う大人の人は、皆真剣に私の話を聞いてくれました。教師以外で、子供の話をここまで真面目にきちんと聞いてくれる大人に出会ったのは初めてで、とても驚いたのを覚えています。実際に新規就農した人たちに会って、話を聞くと、新規就農にお金は重要ではないことや、ヘルパーの組織がしっかりしているため休暇をとることもできることが分かりました。そして、新規就農して1年や2年の酪農家さんたちは確かに忙しそうでしたが、それ以上に生き生きとしていて、酪農を楽しんでいることが伝わりました。

実習を通して私が学んだのは、「新規就農はできる」ということです。新規就農はできます。一言で片付くことですが、私にとってとても大きな一言です。これを知ることができたこの実習で、私の人生は変わったと断言できます。そもそも、新規就農を難しいと考えすぎるのが間違っているのです。「酪農は大変」「新規就農は難しい」そのように言ってくる人たちは、酪農を、新規就農を、知っているのでしょうか。少なくとも私の父は酪農をしたことがありません。したことが無くて何故わかるのでしょうか。確かに、酪農は肉体労働で、大変かもしれません。ですが、大変なのは他の仕事も同じです。色々な仕事がある中で、酪農だけが特に大変だなんてことはあり得ません。新規就農も同じです。起業して、経営をしている人がいるのに、新規就農ができないはずがないです。

酪農は、全く関わったことが無くても、なんとなく想像できてしまう仕事です。そしてその想像の大抵は、憶測でしかない酪農の辛い部分だったりします。そういった想像を元に話す人たちの言葉で、酪農の道へ進むことに抵抗を感じる人は案外多いと思います。そうして、実際に深く酪農のことを知らないまま諦めてしまうのは、もったいないと思いませんか。

担い手の不足が問題視されている中、新規就農時の支援を充実させることも重要かもしれません。ですが、もっと前の段階、酪農に夢を見るところから人を支える必要があるのではないのでしょうか。

今年になって、新入生が入ってきました。新規就農したいと思うけど、まだ本当に夢なので、と言う子がいます。新規就農気になっているけど、大変だしまだ考え中ですよと言う子がいます。私はかつての自分を思い出しながら、実習にいつてみたかどうかと誘うのです。実際にその子が新規就農するかどうかは置いといて、新規就農は不可能ではないことを、酪農は楽しいということを知ってもらいたいです。

私は新規就農をして、新規就農はできるということを伝えられる人になりたいです。私を受け入れてくれた酪農家さんのように、実習生を受け入れて、酪農のことを伝えられるような大人になるために、帯広畜産大学で日々学んでいます。